

THE MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION

# 地域の伝統文化

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団

地域の伝統文化 第31号

令和5年10月2日発行

発行：明治安田クオリティオブライフ文化財団  
編集：専務理事 壁谷 章 可  
住所：〒163-0633  
東京都新宿区西新宿1-25-1  
TEL：03-3349-6194  
FAX：03-3345-6388  
<https://www.meijiyasuda-qol-bunka.or.jp>



静岡県島田市「島田鹿島踊保存会」(令和五年度助成先)の『鹿島踊 三番叟』  
於：島田大祭 撮影：令和4年10月

## 令和六年度 「地域の伝統文化の継承・発展活動」 に対する費用助成希望受付開始

公益財団法人明治安田クオリティオブライフ文化財団では、平成三年六月に財団を設立以来、地域に伝承されてきた「地域の伝統文化の継承・発展活動」とくに後継者の育成に必要な諸活動に対する助成を行なっています。令和六年度で三四回目をむかえます。

これまでに行なった助成は、累計一四〇〇件となり、その地域も全国の都道府県に及んでいます。

令和六年度も以下の内容により公募を行ないます。

詳細につきましては、各都道府県の教育委員会または知事部局の文化関係所管課に送付してあります「令和六年度助成申込要領」をご覧ください。なお、お申し込みください。

なお、申込要領の詳細は、財団のホームページにも掲載しています。

### 『申込要領の概要』

#### 〔助成対象〕

「地域の民俗芸能」「地域の民俗技術」の継承、とくに後継者育成のための諸活動に努力をしている個人または団体。

#### 〔助成の条件〕

令和六年度(二〇二五年三月まで)に後継者育成を目的とする諸費用(道具整備費、製作材料費、育成研修費、記録保存費用など)の支出を予定していること。その支出を賄うために、外部からの資金協力が緊急不可欠であること。

#### 〔申込手続〕

- 一、提出書類  
〔申込書〕(所定用紙)  
〔推薦書〕(所定用紙)

「活動状況がわかる写真」  
「直近の収支決算書(写)」  
「参考資料」等  
二、申込に際し、「推薦書」に各都道府県の文化関係所管課の推薦を受けてください。

#### 〔手続日程〕

- 一、申込期限  
令和六年一月三十一日(水)
- 二、結果発表  
令和六年三月下旬(予定)

#### 〔選考方法手続〕

提出書類に基づき当財団の選考委員会で厳正に審査し、理事会に答申して決定します。

#### 〔助成金額〕

- 一、民俗芸能への助成は、  
一件につき七〇万円が限度
- 二、民俗技術への助成は、  
一件につき四〇万円が限度

#### 〔伝統文化分野選考委員〕

- 委員長 小島美子  
(国立歴史民俗博物館名誉教授)
- 委員 神野善治  
(武蔵野美術大学名誉教授)
- 委員 田中宣一  
(成城大学名誉教授)
- 委員 西角井正大  
(前日本民族芸能協会会長)
- 委員 星野紘  
(全日本郷土芸能協会理事長・  
日本民族音楽学会会長)
- 委員 茂木栄  
(國學院大学名誉教授)
- 委員 山内彰  
(当財団前事務局長)

〔敬称略〕

## Ⅱ 特別寄稿Ⅱ 「道具の供養」

(成城大学名誉教授)

田中宣一

(当財団伝統文化分野選考委員)

田中宣一先生略歴



福井県出身。  
国学院大学大学院文学研究科  
博士課程修了。

成城大学文芸学部教授を経て、  
現在、成城大学名誉教授

祭りや年中行事をはじめ、近現代の民  
俗の変化について研究。

主な著書に、  
『年中行事の研究』『祀りを乞う神々』

『徳山村民俗誌―ダム水没地域社会の  
解体と再生』『柳田国男・伝承の「発  
見』』『名づけの民俗学』

編著・共編著に、  
『暮らしの革命―戦後農村の生活改善  
事業と新生活運動』『食の昭和文文化史』

『三省堂年中行事事典』『海と島のくら  
し』など多数。

はじめに

地域の伝統行事や民俗芸能には、先人から引き継いださまざまな道具や衣裳、楽器類が用いられている。皆様のところには、何十年いや一〇〇年以上にもわたって使用しつづけたものも多いであろう。いずれも丁寧に扱われしつかりした製品ではあるが、形あるもの、長年の間には破損したり擦り切れたりして、いつかは使用不能になる。もはや修理もできない。その前に、いくつかのものは民俗文化財とか重要郷土資料などに指定されて長年保存されるであろうが、大部分は処分せざるをえない。そのとき皆様はどうされているのであろうか。

昔からしばしば、供養して捨てるということが行なわれてきた。筆供養とか針供養という言葉をお聞きになった方は多いと思うが、それがこれである。長年用いてきた道具類には人と同様に霊が宿っていると考え、供養して処分することが各地で行なわれてきたし、現在でも行なわれている。いくつか紹介し、道具類に対する人々の思いを考えてみたい。

様々な道具供養

すぐ思い浮かぶだけでも、庖丁供養、鉋供養、時計供養、眼鏡供養、傘供養、下駄供養、靴供養、陶器供養、箸供養、

扇子供養、茶筌供養など、すぐ十指に余るものを挙げるができる。  
私の知っている庖丁供養は、東京の品川神社で行なわれている。品川区鮎商環境衛生組合連合会が、長年世話になり、今はもう不用になった庖丁の劣に感謝し、同時にそれらによって調理された食材を慰霊し、業界の発展も願うため庖丁塚を建立し、そこで行なわれている。持ち寄った古庖丁を三方に載せて塚の前に置き、神職にお祓いしてもらったあと塚の中に納めるというものである。昭和五十一年に始められたというから比較的新しい行事であるが、庖丁塚はあちこちにあるので、いろいろな地域で行なわれているのであろう。



[品川神社 庖丁塚]

鉋供養は東京都港区芝の増上寺で、八月三日(ハサミの日)に行なわれている。山野愛子美容院グループが境内に聖観音像を建立し、使い古し錆び付いて不用になった鉋を各自持ち寄って、僧侶に読経して貰い供養し埋納するというものである。同じ鉋でも、神奈川県藤沢市の江島神社でのものは華道関係者の花鉋の供養で、神職にお祓いしてもらったあと、古鉋は鉋塚に納められるのである。

鎌倉市の荏柄天神社には、河童の漫画でお馴染みの清水崑愛用の絵筆を納めた絵筆塚がある。この境内でも一月二十五日の天神の日に絵筆以外にも多

くの古い筆が持ち寄られ、神職のお祓い  
のあと境内でお焚きあげし(燃やすこと)供養されている。絵筆塚は昭和四十年代半ばに設けられたもので、江戸時代に寺子屋で行なわれていた筆供養にならったものであろうか。同市の鎌倉五山の一つ建長寺境内には茶筌塚があり、茶道関係者によって古茶筌が持ち寄られ、お焚きあげし供養されている。



[筆供養での筆のお焚きあげ]

東京都浅草寺境内の淡島堂では、十二月八日、和服裁縫関係者が不用になった折れ針・古針を持ち寄って大きな豆腐に刺し、僧侶の読経の中焼香をし、供養後処分している。今は和裁の針だけでなく、かつては漁師によって古釣り針や医学関係者によって不用の注射針まで持込まれ、供養されていたという。同寺横の浅草神社境内には日本舞踊の花柳流一門の扇塚があり、一門の人々が古扇子・破れ扇を持ち寄ってお焚きあげし、供養している。

例を挙げていけばきりがないのでこれくらいで止めるが、京都その他各地には、先に挙げたもの以外にカード供養、

手紙供養、写真供養、人形供養、瓦供養などなど、はてはパチンコ台供養などというものまで、さまざま行なわれている。



〔浅草神社 扇子供養〕

### 道具には霊が宿る

なぜこのようなことが行なわれているのであろうか。関係者の言う第一の理由は、長年用いてきた道具類への愛着心、役立ってくれた道具達への感謝の思いからだといふのである。偽りない気持ちだと思いが、ただ単にそれだけであろうか、無意識ながらも深く深い理由があるのではないかと、とも思う。

中世の御伽草子に、「付喪神（つくもがみ）」という作品がある。粗筋を述べると――、年の暮れの京都、煤払いのさいに各家庭からゴミとして捨てられた古道具が、夜集まって言い合うには、我々は多年家の道具として奉公の忠節を尽きたのに、特に感謝もされず、恩賞もなく、毀れ古びたので道端に捨てられてしまった。残念ではないか、ひとつ化けて出て人間どもに仇討してやろうではないか、と相談する。そして或る道具は人間になりすまし、或る道具は妖怪や狐などに化けて人間社会に入り込んで悪さをし、牛馬や食糧を攫って、酒宴歓楽の限りを尽くす。しかし結局は高僧に見破られ、仏力によって懲らしめられ、高僧の導きで成仏するというものである。

付喪神という名は老女のつくも髪（白髪）からとった名で、ちよつとおどろおどろしい。さらに、つくもは九十九の意で、多くのものという意味だから、付喪神は不気味な多くの神（霊）という意。化物にぴったりの名である。

右の話は、長年使った道具には霊が宿り、いい加減に捨てるとその霊が発現して祟りをなすといふもの。当時は長年用いた道具には何らかの霊が宿るようになるという考えがあったから、思いついた話であろう。道具の霊が跳梁跋扈するという「百鬼夜行絵巻」といふものまで描かれていて、人気を博したようだ。

江戸末期の戯作者滝沢馬琴に『昔語質屋庫（むかしがたりしちやのくら）』という作品がある。質草として蔵の中に押し込められている着物や諸道具、書画、太刀などが夜な夜な発現し、人間よろしくそれぞれの立場から、あれこれ話し合うといふもので、道具達の語る自慢話や人間社会観が面白い。質草は打ち捨てられたものとは違ふが、人間によって一時的に放置された状態に置かれていることは確かだ、当時の人々に、道具にはそれぞれ霊が宿っているといふことが信じられていたからの作品であろう。

さて、先に挙げた数々の道具の供養だが、現代人は物に霊などあるものかと思ふかも知れない。しかし現代人の心にもどこかに、昔の人から伝承された同じような考えが潜在していて、役に立ってくれた道具を簡単にポイと捨てると、霊が悲しみ崇めてくるのではないかと、霊が怖れが、引き継がれているのではないかと、あろうか。だから、神職や僧侶に頼り、道具（の霊）に対して供養という宗教行為をしてもらうのであろうと思ふ。

### 宿る霊を供養して解放する

ところで、供養は手足の延長である道具類に対してだけでは限らない。

昭和六十年前後に私は、ダムで沈むことになった岐阜県旧徳山村へ何度かお邪魔されたことがある。もうあちこちで家が壊され、移転の準備が進められていたのであるが、その時気がついたのは、多くの家で僧侶を招いて古仏壇を供養してもらったり、神職に頼んで竈や井戸・トイレを祓ってもらったあと、家屋全体のお祓いをしてもらったから、家屋を解体していることだった。祖父や曾祖父以来の長い間、宿りつづけ、家族を守ってくれていたと考える仏壇の霊、家屋に籠っているであろう霊を、読経・修祓という行為で供養し解放して（あるいは霊を抜き出して）やろうという心持からのようである。宿っている霊を解放し、仏壇や家屋を単なるモノにして処分するための供養行為だったのである。現代のビル取り壊しのさいにも、似たようなことがなされているのであろうか。

廃船処分の場合もそうである。かつての木造船は新造したさい、必ず船霊（船玉・船魂）といふものを、帆柱の下などに入れ祀りつづけていたのだ、廃船にせざるをえなくなった時には、その船霊を供養し取り出し、船を単なるモノとして処分していたのである。この場合は、最初に霊を籠めたのであるから取り出すのは当然だといへ、霊の宿っていない単なるモノにしてしまえば、廃棄しても祟りの怖れなしというわけである。

変わったところで、次に仏像について。仏像は道具ではないし、仏像を処分するといふことはきわめて稀であろうが、仏像によつては、しばしば本来の拝む対象でなくなることがある。国宝展など博物館の展覧会に出品される時がそ

うである。仏像は彫刻し終えたあと、開眼供養が行なわれて仏霊が籠められる。それを信者は、寺院においてやや下方から手を合せて拜むのだが、博物館での見学者は、立ったまま上から目線で、しかも人によつては帽子を被りポケットに手を突っ込んだような格好で、単なる美術品として鑑賞することが多い。これでは平素、ご本尊としてその仏像を拝み祈願している僧侶や信者には、耐えがたい。そこで多くの寺では、博物館へ出品するさいには、その仏像を供養し、仏像の霊を抜き、仏像を単なるモノにしてから送り出しているのである。そして展示期間が過ぎて寺へ戻されてきたさいには、供養儀礼を行なつて再び霊を籠め、信仰の対象、拝む対象にしているのである。仏像は仏そのものだと考えがちだが、仏像といふ彫刻への霊の出し入れは、このように適宜なされることがあるようである。

### おわりに

以上みてきたように、われわれは古来、身近な多くのものに霊が宿っていると信じてきた。ここでは述べなかつたが、道具類だけではなく、草木や鳥獣魚類にもそう考えてきたのである。アニミズムといふものであろう。そういう心意が無意識のうちに次々伝承され、現代人にも引き継がれているのであろう。

道具類への供養は、行なっている人々が言うように、現代では専ら感謝の念で行なわれているのであるが、決してそれだけでなく、宿る霊を疎かにした場合に何か祟りがあるのではないかといふ怖れが、現代人にもどこかに潜んでいる。供養が行なわれているのではないであらうか。道具を大事に扱わなければならぬという教訓も、もとはこういうところにあつたのかも知れない。

寄稿

前沢の女宝財踊を未来につなぐ

福島県双葉町

前沢の女宝財踊保存会

会長 半谷 八重子

(令和五年度助成先)

はじめに

福島県は浜通り、中通り、会津の三つに分れています。双葉町は浜通りに位置し、東に太平洋、西に阿武隈山系を望み、海と山に恵まれ、JR常磐線と国道六号線が平行しながら町の中心部を南北に縦断しています。また、国道二八八号線、県の中央部に位置する郡山市とも結ばれています。比較的温暖な気候が特徴で、東北地方にありながら冬は積雪が少なく、とても住みやすい自然環境に恵まれています。

地域の恒例行事として、毎年一月上旬に開催され三百余年の伝統がある「ダルマ市」そして二月に行われる樹齢一千年を超える県指定天然記念物「前田の大スギ」のそばに鎮座する稲荷神社の「初午祭」があります。ダルマ市や初午祭で、「前沢の女宝財踊(まえさわのおんなほうさいおどり)」を披露することは、地域の人々にとって楽しみの一つでもありました。



[再建された稲荷神社の大杉の前]

しかし、二〇一一年三月十一日

に発生した東日本大震災と、福島第一原子力発電所の事故により全町民が避難。二〇一二年八月三十日に特定復興再生拠点での避難指示が解除され、居住できるようになり、九月五日には役場が町内での業務を新庁舎で十一年半ぶりに再開、同時に前田の稲荷神社も再建されました。



[前田稲荷神社社殿再建奉納]

◇「前沢の女宝財踊」の由来

この芸能の起源は、約六百八十年前の南北朝に遡ります。霊山城(現在の福島県伊達市霊山地域)が北朝方に攻められ落城した際、南朝方の北畠顕家の家臣・真野五郎家元ら主従十二人が旅芸人の姿に変装し、日枝神社の御神体を赤ん坊に見せて各地を踊りながら御神体を守りつつ、日吉神社(現在の南相馬市鹿島区江垂)まで逃げ落ちたと言ひ伝えられています。

前沢の女宝財踊はその旅芸人の場面を演じています。昭和二十二年

に双葉町前田地区・水沢地区からそれぞれ一文字を取って「前沢」と称し、今年で七十六年目になります。

踊り手は、棒振り、バチ(太鼓打ち)、太鼓(太鼓持ち)、すりこぎ、お子抱き、お伊勢、はくち二人、僧侶、盲目の琵琶法師の計十人と笛二人で構成します。

踊りの終盤に差し掛かると、舞台の中央に広げたゴザの上でつば振りが始まります。通りかかった盲目の琵琶法師が、ゴザにつまずき転びます。勝負の邪魔をされたばかり二人は、琵琶法師を転がしたり、履物を隠したり、タバコを吸ったり、酒を飲む等の演技をします。この場面が最も悲哀を誘うクライマックスシーンで観客を魅了します。相馬地域に伝わる「宝財踊り」の中では唯一、踊り手がすべて女性であることから「前沢の女宝財踊」と名づけました。

◇東日本大震災翌年に復活

震災翌年の二〇一二年十月二十七日、二十八日に、郡山市で開催された地域伝統芸能全国大会福島大会「ふるさと」の祭り2012に出演依頼がありました。



[福島大会ふるさと祭り2012]

おそらく今回が最後の踊りにな

るだろうと、会員は双葉町の風景を思い出しながら踊りました。演技を終え、この女宝財踊は私たちのものだけでなく多くの方々にも感動と喜びを与えたと感じ、「今後も継続していかねければ」と、伝統芸能の継続として仲間の手をつないだのです。

東日本大震災後は生きることでも精いっぱいでした。十二人の会員の半数以上は他県に避難。衣装、小道具、練習場所等、どうしたらよいのか途方にくれていました。初めて全員で練習したのは本番前日の二十七日、郡山市富田町の仮設住宅での約二時間だけ。笛の音が鳴ると「ホー・ホー」「ソーライ」とおはやしが入り、自然と体が動きまわります。笛の響きに、仮設住宅から町民が次々と見に来てくれました。「懐かしいね。」「大会頑張つて。」とその声援が支えになりました。



[震災後開催されただるま市]

◇伝統を未来に続く育成

震災前は踊りに参加したいという方が多くいましたので、六十五歳位に後継者へ継承していました。震災後は、全国に離散し集まったのが大変で声をかけても簡単に理解していただけなかったため、昨年度より規約を一部改正し、前沢地区在住外の女性にも間口を広め、踊

りの趣旨に賛同する方を会員としています。令和五年度には会員が四人増え、来年のダルマ市に新会員が参加できることを目指して練習しています。居住地が遠方の上、コロナ禍もあり一堂に会って練習することは難しいので、各人が動画や音楽を聴いて自学自習する個人練習が主になっています。



[役柄ごと新会員に踊りの指導]

復活から十一年が経過し、活動が軌道に乗り始めた三年前、新型コロナウイルスの流行により小物や衣装の使いまわしができなくなりました。稽古はしたものの当日に体調不良で出演できない人も出て、予備の衣装類の確保が急務となりました。幸いにも助成を得て、衣装をかなり整備することができました。今後も、引き続き衣装新調に向けた取り組みを行い、地域の伝統芸能を絶やすことなく女性パワーを発揮して頑張つてまいります。



[昭和時代に活躍した会員]

寄稿

# 佐倉噺子保存会における 伝統文化の継承方策について

千葉県佐倉市

佐倉噺子保存会

会長 平野 雄一

(令和五年度助成先)

## ◇佐倉の歴史

江戸時代の佐倉藩は、江戸の東を守る要衝の地として、徳川一族・譜代大名が入封する重要な藩でした。慶長十五年(二六一〇)に入封した土井利勝(どいとしかつ)は、佐倉城とその城下町を築き、また、幕末の藩主で老中首座を務めた堀田正睦(ほったまさよし)は蘭学を奨励し、医師・佐藤泰然(さとうたいぜん)を招いて佐倉城下の本町(もとまち)に順天堂を開かせました。これが順天堂医院のはじまりとされています。



[江戸前の獅子舞]

明治二年に最後の佐倉藩主堀田正倫(ほったまさとも)が領地を奉還するまで、城主の交代

はありましたが数百年にわたり房総第一の雄藩で、十一万石の威風をそなえた城下町でした。堀田正倫は、明治四年ごろから明治二十三年ごろまで東京深川佐賀町に住んだという記録もあり、佐倉は往時から江戸(東京)との繋がりが太く、佐倉領にも自然と江戸の文化が取り入れられたのではないかと思われています。現在、毎年十月に行われている佐倉の秋祭りで曳き廻されている江戸型山車や山車人形は、明治十二年から十三年にかけて江戸より購入されたと伝えられており、このことは佐倉と江戸との繋がりの太さを裏付けるものであると考えられます。この江戸型山車は、所有する各町や佐倉市など行政の尽力により修復等が行われており、現在でも秋祭りの際には江戸の将軍による上覧を受けた当時の姿を見ることが出来ます。



[秋祭り風景：江戸型山車]

このように江戸の各種の文化と深い交流を持ち、「佐倉新町、江戸勝り」の言葉通りに繁栄した中で生まれたのが佐倉噺子です。

## ◇佐倉噺子について

佐倉噺子は戦時中一時中断を余儀なくされましたが、伝統ある噺子を永く保存し伝えよう、昭和三十五年に有志により佐倉噺子保存会が結成され、その後昭和四十六年に佐倉市無形民俗文化財に指定されました。佐倉噺子は、屋台・昇殿・鎌倉・四丁目(しちようめ)・上屋台(あがりやたい)の五曲で構成される組曲であり、これらをひとまとめで「五噺子」と呼んでいます。この曲構成は江戸の祭噺子と同じであり、これが葛西噺子の流れをくむと言われる所以です。



[寿獅子と大黒舞の配役構成]

江戸の祭噺子同様、小気味よく、粋で軽妙な演奏をその特長としています。噺子方は、基本的には、笛一、小太鼓二、大太鼓一、鉦一で編成されますが、佐倉の秋祭りや山車や「御神酒所」と呼ばれる屋台で演奏される仁羽(だいにば)という曲では、大拍子(だいはつ)や「おかめ」や「もどき」と呼ばれる道化(どうけ)の舞が加わりさらに賑やかに演奏されます。また、おめでたい席で

披露される寿獅子と大黒舞などがあります。

## ◇現在の佐倉噺子保存会の活動

保存会は、主に一〇代から七〇代までの幅広い世代の会員を擁しています。毎週土曜日の定例稽古を基本とし、様々な年間活動を通じて佐倉噺子の伝承のみならず、世代間交流により、年長者に対する礼節や年少者に対する思いやり等の現代社会では希薄になったと言われる人間関係醸成の場として青少年育成、地域コミュニケーション形成に一役買っています。



[神社演奏の集合写真]

本来、お噺子の伝え方は口伝によるものが基本とされています。口伝とは師匠から弟子へ口伝えにより伝承される稽古方式ですが、受け手の感覚やセンスに左右される部分があるため、佐倉噺子保存会では噺子が更に誰にでもわかりやすく、捉えやすいものとなるよう「テケ天(スケ天 天)」といった口唱歌(くちしょうが)を曲ごとに譜面に起こし、頭で理解して、他の会員の演奏を見て、聴いて

自らは本物の太鼓を打って演奏して、というように頭と体を総動員する稽古方式としています。噺子というところか古めかしくとつきにくく感じるを受けますが、難しく考えず、リズムやテンポ、さらに「ノリ」といった音楽には重要な要素を楽しみながら習得できるようにしています。



[実演奏における世代間交流]

## ◇これからの展望

会の基本活動である定例稽古では後継者の育成が最重要項目であり、若年期から本物を体感しながら確かな目を培っていくことで正統な技術の伝承を目指し、地道な活動を連綿と繋いでいくことで確実に次世代に地域の伝統文化を伝えていくことが出来るかと考えています。佐倉噺子保存会の活動を通じて、少年期から地域の活動に積極的に関わるきっかけになり、郷土愛を育み、ひいては地域で生活される人々の心のふるさとづくりに貢献できれば幸いです。

寄稿

# 島田鹿島踊について

静岡県島田市

島田鹿島踊保存会

会長 柴田 伸二

(令和五年度助成先)

## ◇島田鹿島踊の始まり

島田鹿島踊は、今から三五〇年前の江戸時代中期、延宝年間(一六七三～一八一)に始まりました。東海道五十三次の中で大井川左岸に位置する江戸から二十三番目の宿場・島田宿に疫病が蔓延したとき、大井神社の境内に春日神社を祀り、疫病の退散を願って踊り始めたのが始まりです。



[春日神社奉納踊]

その後、元禄八年(一六九五)に始まった島田大祭(帯まつり)の神輿渡御に供奉するようになり、以来三年に一度、疫病退散・招福攘災・五穀豊穣を祈願し、神様を慰めるため奉納しています。駿河七郡すべてを対象に詳細な実地調査を繰り返して、丹念に考証した地誌『駿河記』(著者は島田宿出身の桑原藤泰)には、大奴で有名な大名行列と共に、江戸時代後期に行われた鹿島踊の様子が説明入りで描かれています。

## ◇踊りの特徴と構成

鹿島踊の特徴として、一つの曲で踊り子四役(三番叟・お鏡・鼓・ささら)がそれぞれ別々の型の踊りを同時に踊ります。往來を踊りながら後ろ向きに進む所作が珍しいものです。



[三番叟(高校生)]



[お鏡(中学生)]

また、いろいろな事情で神社まで行けない人たちのために細い路地などをくまなく回り、神様をお連れしお参りができるようにしているのも特徴の一つです。鹿島踊は能や舞踊などと田楽が融合し、古代の神楽を想像できる優美な踊りとなっております。神様の

心をお慰めする神事舞です。中でも三番叟は歌舞伎の登場人物で、「寿式三番叟」として上演されるなど大変めでたい出し物でした。時代の流れとともに変遷してきましたが、高島帽子は原型を残し今に伝えられています。

踊りの構成は、行列の先頭に白丁が一人、踊り子は三番叟二人、お鏡一人、鼓三人、ささら三人の八人一組が二組ずつ二列で踊りその後草笛・小太鼓・てびら鉦・大太鼓といった楽人が続き、総勢四十人程になります。かけ声も三番叟とお鏡は「ヨイ・ヨイ・ソレサラー・ハ・サノサ」と唱えながら踊り、鼓とささらは、「ヨイ・ヨイ・ソーンライ・サノサ」と唱えながら踊ります。



[楽人約15人で演奏]



[鼓・ささら 休憩風景]

この鹿島踊は代々島田市本通六

丁目と南町が担当し、第六街として伝統を受け継いでいます。昭和三十年代後半までは青年が踊っていましたが、近年では小学四年生以上から中学生・高校生までの中から幅広く希望者を募り、担い手を構成しています。

## ◇島田宿に定着した背景

鹿島踊の起源については諸説ありますが、茨城県鹿嶋市の鹿島神社に因っていることは共通認識となつています。伝播している地域の大部分が伊豆地域の沿岸部に多くあることから、石材・木材運搬の担い手たちによって広められたという説があります。また、江戸時代に盛んだった鹿島信仰を背景に「鹿島の事触れ」と称する稲作の豊凶などに関する神託を行うて各地を歩んだ神官たちによって普及したともいわれています。これは相模湾型といわれ、「鹿島の事触れ」の配布順路に合致していると考えられています。

それらの結果として鹿島踊は、疫病退散・五穀豊穣・航海安全を願い、平たんな農地に恵まれない地域の人達に信仰の糧を与える神事・芸能になったとされています。本来の鹿島踊は、青年男子が主体となり、方舞と円舞との組み合わせ、衣裳は狩衣(かりぎぬ)の白浄衣(しろじょうぎ)に鳥帽子が主体で、歌を伴いその歌詞には鹿島信仰と弥勒信仰との習合が見られます。



[島田大祭2022年度の鹿島踊風景]

当地に伝わる島田鹿島踊は、大井川の川止め期間中に宿場で滞在した人たちがから上方や江戸で流行した芸能が伝えられ、島田宿の文化と芸能が組み合わされて形成されたものと思われまふ。したがって島田鹿島踊の誕生には島田宿と大井川が大きく関係し、ここに集積された多くの情報が島田宿に根付き、鹿島踊りに反映していったものと考えられます。

## ◇保存会の今後の活動

現在、鹿島踊保存会として会員は約一五〇名が在籍しています。



[小学生の練習風景]

今後は、三五〇年の伝統ある文化をどのように継承して行くのかを課題にふまけて活動していきます。高年齢化により子孫の減少、会員の高齢化により子孫の減少、優雅な踊りではあるが四役の踊りがそれぞれ違うため教える側の師匠不足、また衣装代が高額な為資金不足等の課題が残されています。引き続き、会員同士で知恵を出し合いながら活動を続けていきたいと考えております。

寄稿

小さな島の大きなお祭り

高知県宿毛市 鵜来島地区

地区長 田中 美千枝

(令和五年度助成先)

◇はじめに

鵜来島(うくるしま)は高知県の最西端、東経一三二度二九分北緯三二度四七分に位置し、伊豆諸島の青ヶ島と同緯度にあるとても温暖な地です。高知県宿毛市(すくもし)片島港より海上二三、三キロの小さな島です。周囲は約六キロの



〔鵜来島〕

島は長い歴史の中で伊予宇和島の領地だったため、文化面でも伊予の流れを多く受けています。江戸前期の正保元年(一六四四)より始まった「土予国境争い」で長い間土佐藩と宇和島藩との領土争いがつづいていましたが、明治七年(一八七四)に高知県に編入されました。昭和三十五年(一九六〇)ころは、約四百人が居住する漁業中心の

島でした。常時かつお船が五隻出船して、かつおぶし工場が何軒もあり、とても賑わっていました。漁業で生計を立てている人がたくさん住んでいたのですが、島民だけで毎年お祭りをするのができていました。その後、次第に人口が減り、島だけではお祭りができなくなり、二〇〇二年を最後に一度終わることとなりました。しかし、島出身有志の熱い思いにより、二〇〇九年、七年ぶりに復活しました。日本全国に住んでいる出身者の方々はじめ、鵜来島の大祭を見たという人たちが大勢集まって盛大に行うことができ、参加者すべての人たちの心が満たされた時間となりました。それ以降も人口が減り続けて島民は三十人ほどになり、一方で高齢化も進んできました。それでも島に残って生活しているおばあちゃんたちは毎日元気に畑仕事を続けて、島に観光に来る人たちを出迎え、廃校になった学校の前にあるベンチにすわり話をしながら「また、お祭りが見たいね。あんなお祭りは最高よ」と楽しかった思い出にひたついていた毎日でした。当時の区長、田中辰徳さんは、そんなおばあちゃんたちの話を聞き、「このままこの島の伝統文化を無くしてはならない」と意を決し、島出身者の方々に呼びかけ「鵜来島を守る会」を発足しました。それから六年かけて話し合い、準備を重ねて、二〇一五年に再度復活させることができました。

◇春日神社秋季大祭

―三体的お練り―

鵜来島では、海上安全、大漁祈願、豊作祈願を願って秋季大祭を行います。人口減少と高齢化によって開催することができなかつた時

期もありましたが再度復活することができ、島出身者を含め三五〇人も来島しお祭りに参加してくれました。担ぎ手だけでも百人は必要で、それぞれ神輿、樽、牛鬼に分かれ、責任者の指示を受けながら担ぎます。

先ず、島の高台にある神社において神主様による神事を行います。お神輿に御神体がうつされてから「おさがり」といわれる、神社の急な階段を一段一段ゆっくりと牛鬼樽、神輿の順番に降りていき、鳥居をくぐってからは細い階段の道を通り、民家と民家の間を通り抜け、狭い角を曲がりながら学校のグラウンドに設置した「御旅所」といわれる神社の分社に着きます。グラウンドには大漁旗を飾り、海の漁師のお祭りを演出します。



〔おさがりの様子〕

樽は大鼓台です。着物を着て化粧をした小学一年、二年生の男の子四人が乗り「アラヨイヤセ」という声とともに太鼓を叩きます。それを担いでいる五十人ほどの人たちが「ヨイヤセハリセ」と返します。お練りの前には「トロリヨ」と始まる樽唄を歌い、周りの人が「エイヤエイヤ」とかけ声をかけながら樽がグラウンドの中央に移動し、次は牛鬼が走り、それを追いかけて神輿が走って樽の周りをまわ

りはじめ、競い合いぶつかり合つて神輿が牛鬼を追い払うという勇壮なお祭りです。時おり休憩し、島民たちが無病息災、家内安全、大漁祈願を願い、手を合わせ神輿の下を潜ります。氏神様に一年間の恵みと守りに感謝する時間を持ちます。



〔お練り〕

夕方うす暗くなると、何ヶ所かに置かれたライトがグラウンドを照らし、夜のお練りが始まります。ライトに照らされた三体的はとても荘厳で幻想的です。哀愁漂うお練りの時間です。クライマックスの時を迎えると、神輿に追い払われた牛鬼は、先に逃げようとしてグラウンドから出ていこうとします。しかし、なかなか逃がさない神輿は牛鬼を引き戻し、さらに競り合い追いかけてきます。何度か繰り返す、牛鬼は逃げて神社へ帰っていきます。牛鬼は逃げたお練りの後「おかえり」の時間を迎えます。神社までの道は色とりどりに塗られた電球で照らされ、うす暗い中でも美しい神様の道がうつろい、その後すべてを清め整えて神輿が帰ります。うす明りに照らされて狭い階段をのぼる神輿の姿はとても美しく、人々を感動の渦の中に引き入れます。道案内役の猿田彦が「お山にかかってチョーサイヤー」

と声をかけ、それを担ぎ手も周りの人々もともにかけ合いながら上っていきます。



〔おかえりの様子〕

◇伝統文化の承継

普段は十八人しか住んでいないこの小さな島に三五〇人も人が集まり、一年に一度のお祭りを成し遂げる、みんなで作る、みんなを守る伝統文化です。帰る時は「ありがとう」また来年会いましょう」と声をかけ合い別れます。準備はともすべての参加者も皆一つの家族となつてお祭りを楽しみ成し遂げます。これが島の文化です。

新型コロナウイルスの影響により二年間は神事のみのお祭りでしたが、昨年は縮小した形ながらも神輿と牛鬼でお練りをしました。その際に神輿を破損してしまい、今まではお祭りができないと悩んでいた時、助成を受けることになりました。神輿の修繕の目途がつき、今年のお祭りの計画を立てることができ、お祭りを伝統文化として後世に残していきたいという私たちの思いを理解していただき深く感謝いたします。今後は、鵜来島の伝統文化の保存や継承、人と人とのつながりを守っていききたいと思っています。最後に、私はこの島に嫁いできて二十九年になります。今では、この島の家族となつてお祭りを楽しんでます。ありがとうございます。

寄稿

# 地域を支えてきた

## 焼畑の再現と技術継承

熊本県五木村

園田 久

(令和五年度助成先)

### ◇焼畑の地

熊本県球磨郡五木村は急峻な山間地が大部分を占め、水田が開ける平地はごく僅かです。水田がほとんどない土地で人々の食を支える方法が「焼畑」でした。

江戸時代の古文書によれば、当時の人口は今のほぼ二倍、二千人を超えていました。その人口を支えるだけの面積で焼畑が行われていたのです。

しかし、焼畑を行う人は減少していき、昭和五十年ころにはほとんど見られなくなりました。

### ◇焼畑の再発見

二〇二〇年に五木村歴史文化交流館「ヒストリアテラス五木谷」にて国立民族学博物館と共同で「佐々木高明の見た焼畑」五木村から世界へ」が行われました。

この企画展では焼畑をテーマに様々な角度から専門家による解説セミナーが開かれ、これに参加した私は五木の食を作り出した焼畑に興味を持ちました。

### ◇焼畑とは

ここで五木村での焼畑について簡単に説明します。

五木村では焼畑を「コバ」※と言います。

焼畑はまず森林を伐採するこ

とから始まります。十分に乾燥させたあと火を点けて焼きます。その焼け跡にソバ、ムギ、ヒエ、アワなどを育て、翌年も同様に栽培します。三年目は大豆や小豆を育て、四年目にはイモ類を植え付けます。



[焼畑のヒエ]

焼畑は、雑草の侵入により時間と共に耕作面積が減少してきます。そのため五年目以降はあまり耕作をしません。これを「アラシ」と呼び、焼畑の跡地は数十年かけて元の森林へ返っていくと言われています。

また、森林に戻りゆく過程でも、食料や家財の材料などの採取場所や狩猟の場としてその土地に暮らす人々の役に立ちます。

### ◇焼畑への偏見

しかし、焼畑には「焼畑商法」という言葉で表現されるように自然破壊という偏見があります。

これに対して、五木村の焼畑は肥料を入れることなく、少なくとも六百年間安定して営まれた事実から自然破壊と言えないのではないのでしょうか。

### ◇技術の継承

私はこの焼畑を再現したいと考えました。それは今の子どもたちに対して、山は「見るもの」ではなく「使うもの」と伝えたい気持ちがあったのです。

また、技術の継承も必要です。焼畑で生活していた時代を知る人々は八十歳を越えてきました。このままでは多様な民俗技術や焼畑を基盤とする風習の根本が失われてしまいます。それを引き継ぎたいと思うようになりました。

### ◇焼畑の実施と教育

二〇二一年三月初めて焼畑を行いました。全てが初めてであり、用心して平地に燃料となる木材を運び入れての実施でした。しかし、鹿などの食害により収穫までは至りませんでした。



[五木中学生の焼畑協力]

この火入れの際に五木中学校の生徒たちが協力してくれました。(写真) これは同校の田村誠

志教諭から、生徒に地域の文化を体験させたいという嬉しい申し出があったためです。

二〇二二年八月には、山間地で初めて本格的な焼畑を試みしました。面積は一反ほどで、火入れ作業のあとに五木村で伝えられてきた「赤大根」と蕎麦を播きま

した。蕎麦は少し時期を逸していたので、ほとんど発芽しませんでした。赤大根は良く育ち収穫し酢漬けとして販売を試みま



[五木村在来野菜赤大根]

### ◇浮かび上がる問題

焼畑の再現をとおして色々な問題が分かりました。現在ではまず獣害対策です。焼畑をネットでも囲わなければ鹿や猪、兎などの野生動物から食べられてしまい作物の収穫は困難です。

また火入れ作業の負担が大きいです。今日では法規で定めがあり、山林火災にならないよう人員や装備を備えなければなりません。私は収穫物を加工して販売し、その実益を使い焼畑を続けていきたいと考えています。そのために、安定した作物生産や防火備品の整備を進めていく必要があります。

### ◇焼畑文化の継承に向けて

稲作が稲作文化を作り上げたように、焼畑もまた「焼畑文化」を作り上げていたと思います。その文化の基盤をなす焼畑は「文化」を理解するための重要な要因です。

私が生まれ育った五木村は今、人口が千人を切り過疎化が進行しています。

人口の減少により、これまで五木村に伝わってきた民俗芸能や風習・技術で形作られた焼畑文化が実態を伴わない記録や知識になることを心配しています。人口減少は簡単には解決できるものではありませんが、五木村の過疎化の進行には山での労働が危険を伴い厳しいにも拘らず収入が少なくないと思われる点もあると思います。



[赤大根の実った焼畑]

私はこの活動を通じて五木村を支えてきた焼畑の伝統が収入増の手段として多くの人が認められ、この土地で生きていきたいと考える人が一人でも出てくることを願っています。それは日本文化の多様性を証明する貴重な焼畑文化を後世に継承していく活動にもつながっていくでしょう。



平成3年～令和5年 都道府県別伝統文化助成先一覧(1) \*印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
岩手県	小梨芸能保存会	山形県	堀内伝承文化保存会	平成3年度助成(29)	
秋田県	戸沢ささら保存振興会	栃木県	山岡和三郎氏(日光下駄)*	北海道	石崎奴保存会
山形県	鷹巣町綴子大太鼓上町保存会	群馬県	大神楽獅子舞保存会	青森県	厚岸かくら保存会
	遊佐のアマハグ保存会	埼玉県	明覚郷流鑼馬保存会		紙漉沢獅子踊保存会
	峠ノ山八幡神社弓祭協賛会	千葉県	野田津久舞保存会		七戸町郷土芸能保存会
福島県	葛尾村公民館	神奈川県	大谷芸能保存会	岩手県	白浜剣舞保存会
栃木県	大沢田太々神楽保存会	石川県	能登の揚浜式製塩保存会*	宮城県	とよま山車まつり保存会
千葉県	佐原囃子保存会	福井県	花山行事保存会	山形県	今利一郎氏(深山和紙製造)*
新潟県	片野尾歌舞伎保存会	岐阜県	加子母歌舞伎保存会	群馬県	岩島保存会*
富山県	八尾町曳山保存会	愛知県	甚目寺説教源氏節人形芝居「もくもく座」	東京都	説経節の会
福井県	糸崎寺仏舞保存会	三重県	東玉垣唐人踊り保存会		秋川歌舞伎保存会
	福谷区大火勢保存会		二木島祭保存会	新潟県	神谷地域ビデオ収録委員会
山梨県	藤木道祖神祭保存会		吉身祭礼保存会	福井県	越前万歳保存会
長野県	信級中原流太々神楽囃子保存会	兵庫県	福田お幡入れ法伝哉伝承保存会	長野県	木曾漆器保存調査会*
岐阜県	高雄歌舞伎保存会	和歌山	土生八幡神社「お頭保存会」	岐阜県	大井文楽保存会
三重県	深野和紙保存会*	島根県	西田葛生産組合*	三重県	東玉垣唐人踊り保存会
滋賀県	岩熊区雅楽保存会		中野神楽保存会	奈良県	石打太鼓踊保存会
大阪府	能勢町人形浄瑠璃実行委員会	広島県	八千代神楽団	和歌山	大島水門祭保存会
	堺式手織綴通技術保存協会*	山口県	鷺の舞保存会	島根県	西本里美氏(西田葛の復興)*
兵庫県	熊野神社祿祭保存会	徳島県	森藤獅子舞保存会		島後久見神楽保持者会
鳥取県	新田人形浄瑠璃芝居相生文楽	香川県	中山農村歌舞伎保存会	広島県	比和町郷土芸能振興会
島根県	鹿子原の虫送り踊り保存会	高知県	佐喜浜八幡宮古式行事保存会		金城一國斎後継者池田昭人氏*
	出雲民芸紙工房*	福岡県	内野地区老松神社獅子舞保存会		西原上十二天神神楽保存会
岡山県	壬生農村歌舞伎保存会	長崎県	坂本浮立保存会	徳島県	中村園太夫座(岡花座)
広島県	常定神楽継承団体「戸山会」	熊本県	上井出神社奉納楽保存会	福岡県	加布里山笠保存会
山口県	別府岩戸神楽舞保存会	大分県	大行事八幡宮(カッパ踊保存会)		新多神相撲保存会
徳島県	犬飼農村舞台保存会	宮崎県	村所神楽保存会	長崎県	大村龍踊り保存会
香川県	家の浦二頭獅子舞保存会	鹿児島	東郷文弥節人形浄瑠璃保存会	大分県	木牟田子供神楽保存会
愛媛県	三浦西安来自治会子供武者行列「大江山」保存会	平成6年度助成(40)		宮崎県	諸塚神楽保存会
高知県	野市町立山神社棒術獅子舞保存会	北海道	蘭越町根曲がり竹細工研究会*		大入歌舞伎保存会
福岡県	平八月祭り保存会	青森県	鬼鹿松前神楽保存会	平成4年度助成(34)	
佐賀県	七浦西塩屋面浮立保存会	岩手県	鮫神楽保存会	北海道	安浦駒踊り保存会
	武雄流鑼馬実行委員会		上郷伝統工芸研究会*		長沼町勇獅子舞保存会
長崎県	中尾獅子浮立と唐子踊保存会		石橋鑑剣舞保存会	岩手県	妹背牛町獅子舞保存会
熊本県	久連子古代踊り保存会		夏井大梵天神楽保存会		上郷伝統工芸研究会*
大分県	丸山俚楽保存会	宮城県	塩入神楽保存会		伊藤流行山鹿踊保存会
宮崎県	今西三段打分太鼓踊保存会	秋田県	尾去沢からめ節保存会	宮城県	鷹生郷土芸能保存会
鹿児島	入来麓疋瘡踊保存会	山形県	北條郷総鎮守獅子冠事務所	秋田県	金津七夕祭保存会
	佐仁八月踊り保存会	茨城県	柿岡からくり人形保存会		大葛金山民俗芸能保存会
	中村悦子氏(芙蓉布復元)*	東京都	西川古柳座		前山郷土芸能保存会
平成8年度助成(43)		富山県	五ヶ種チンガレ踊り保存会	山形県	押切神楽保存会
北海道	留萌岩戸神楽保存会	石川県	柏野じょんがら保存会	神奈川	民具製作技術保存会*
	(財)アイヌ民族博物館*		能登の揚浜式製塩保存会*	山梨県	下部温泉神楽保存会
青森県	古懸獅子舞保存会	福井県	だのせ祭り保存会	岐阜県	岐南町伏屋獅子舞保存会
岩手県	行山流都鳥鹿踊保存会	山梨県	美和神社太々神楽保存会	三重県	東玉垣唐人踊り保存会
	平組はしご虎舞保存会	長野県	日吉お鍛様祭り保存会		一色町能楽保存会
宮城県	武鎗鹿踊保存会	岐阜県	白鳥拝殿踊り保存会	兵庫県	三門市オンナイ保存会
秋田県	北秋田市綴子下町大太鼓保存会	三重県	大淀祇園祭保存会		淡河八幡播州音頭・踊り保存会
	鳥田日番楽保存会	大阪府	貝塚東三吉馬保存会		池尻神社人形狂言保存会
山形県	山形町ふるさと資料館	兵庫県	青田神楽保存会	奈良県	龍口獅子舞保存会
福島県	上三坂のやっちき踊り保存会	奈良県	誠語会	鳥取県	日南神楽 神光社
茨城県	あんば囃子保存会	和歌山	真国御田保存クラブ	島根県	西本里美氏(西田葛の復興)*
栃木県	宗円獅子舞保存会	鳥取県	アリエ・クリヌ*		隠岐いぐり凧保存会*
群馬県	沼田祇園囃子保存会連合会	島根県	赤塚神楽佐儀利保存会	広島県	備後かすり学習会*
千葉県	仁組獅子舞保存会	広島県	江の川水系漁撈文化研究会*		羽佐竹神楽団後援会
東京都	ふるさと資料館建設推進委員会*		名荷神楽団	山口県	鷺の舞保存会
神奈川県	仙石原神楽保存会	山口県	徳地人形浄瑠璃保存会	高知県	船戸花取踊り保存会
新潟県	赤玉文化財保存会	徳島県	猿坂獅子組保存会	福岡県	大分の獅子保存会
富山県	八尾町曳山保存会	愛媛県	八幡丸運営委員会	佐賀県	今寺面浮立保存会
	福野縞の会*	高知県	宮谷堂の口あけまつり保存会	長崎県	鷹島町島踊保存会
福井県	加茂神社上宮の神事	福岡県	四三嶋獅子廻し実行委員会		狄田浮立保存会
山梨県	大久保神楽保存会	長崎県	館浦須古踊り保存会	大分県	武多都神楽保存会
	沢登六角堂切子保存会*		大島村盆踊振興会	宮崎県	潮嶽神楽保存会
長野県	成就神楽囃子保存会	熊本県	中江岩戸神楽保存会子供神楽部会		初木白太鼓保存会
	阿島傘の会*	大分県	重岡岩戸神楽保存会	鹿児島	硫黄島八朔太鼓踊り
岐阜県	串原歌舞伎保存会	宮崎県	村所神楽保存会	平成5年度助成(35)	
愛知県	(財)平野町町政会		佐々木寛治郎氏(手漉き和紙)*	北海道	ヤイユーカーラの森*
三重県	一色町能楽保存会	鹿児島	蓬原熊野神社神舞保存会		新十津川町獅子神楽保存会
	深野和紙保存会*	沖縄県	伊江村民俗芸能保存会	青森県	新山権現保存会
大阪府	船待神社神楽子供獅子踊り保存会	平成7年度助成(43)		岩手県	上郷伝統工芸研究会*
兵庫県	廣峯神社無形文化財保存協議会	北海道	月浦獅子舞保存会		赤澤芸能保存会
奈良県	南都晃耀会		釧路アイヌ民芸企業組合*	宮城県	宮崎獅子舞保存会
鳥取県	馬佐良申し上げ祭り保存会	青森県	沼崎伝仏鶏舞保存会	秋田県	中野七夕保存会

平成3年～令和5年 都道府県別伝統文化助成先一覽(2) \*印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
愛媛県	長命講伊勢踊	山形県	平田さしこの会*	平成8年度助成(続き)	
高知県	土佐歌舞伎伝承会	群馬県	猿田彦神社大和神楽保存会	島根県	伝承ホーランエンマ馬瀧權伝馬保存会
福岡県	今津人形芝居保存会(恵比須座)		大宮神社獅子舞保存会	岡山県	川上町渡り拍子保存会
佐賀県	嘉瀬之浦獅子浮立保存会	神奈川	海南神社面神楽保存神楽師会	広島県	阿刀神楽保存会
	森鉦浮立保存会	新潟県	湯川五社神社伶人会	山口県	陶腰輪踊保存会
長崎県	西大村浮立保存会	石川県	木津漁漁太鼓保存会	愛媛県	お簾踊保存会
熊本県	樺木神楽保存会	福井県	若狭町三宅六齋念仏保存会	高知県	遼・三番双保存会
	高沢組太鼓踊り保存会		今庄羽根曾踊保存会	福岡県	流鏑馬武徳会
大分県	五馬玉来神社楽保存会	長野県	内山柱松保存会	佐賀県	蔵上御田舞保存会
宮崎県	尾八重神楽保存会	岐阜県	若松友志会	長崎県	鬼木鐘浮立保存会
鹿児島	久留平氏(太鼓製作)*	三重県	栗谷念仏踊り保存会	熊本県	南阿蘇長野岩戸神楽保存会
	津貫中間豊祭太鼓踊り保存会	滋賀県	老杉神社頭屋行事保存会	大分県	天間地区公民館
	平出水太鼓踊り保存会	京都府	伊根町立石区	宮崎県	広原神楽保存会
沖縄県	津波古獅子蹴跳保存会*		久多の山村生活用具保存会*	鹿児島	大の始式保存会
	保栄茂自治会	大阪府	野間出野秋祭り保存会	沖縄県	柏原区芸能保存会
平成12年度助成(49)		兵庫県	多可町播州歌舞伎クラブ	平成9年度助成(47)	
北海道	掛潤奴保存会	奈良県	祭文音頭保存会	北海道	雷公神社神楽会
青森県	目名神楽会	和歌山	木本八幡宮の御田祭保存会	青森県	田子神楽保存会
岩手県	上郷し踊り保存会	鳥取県	円通寺人形芝居保存会	岩手県	行山流都鳥鹿踊保存会
	塚沢早池峰神楽保存会	島根県	出雲大社神代神楽波積支部波積神楽団	宮城県	嵯峨立神楽保存会
宮城県	和渕法印神楽保存会		今田町内会	秋田県	森岳歌舞伎保存会
秋田県	秋田市太平山谷番楽保存会	岡山県	横野和紙工業協同組合*	山形県	小田島田植踊保存会
山形県	沢渡獅子舞保存会	広島県	比和町郷土芸能振興会	福島県	北部先囃子若龍会
福島県	海老根伝統手漉和紙保存会*	徳島県	つるぎ町天の岩戸神楽保存会	栃木県	芦沼獅子舞保存会
	八槻都々古別神社楽人会	香川県	香翠座デコ芝居保存会	群馬県	沼須人形芝居保存会(あけぼの座)
茨城県	西金砂神社田楽舞保存会	愛媛県	弓削雨乞踊保存会	千葉県	野田津久舞保存会
群馬県	平出歌舞伎保存会	高知県	西畑人形芝居保存会	神奈川	宮城野獅子舞保存会
埼玉県	日進餅つき踊り保存会	福岡県	鐘崎盆踊り振興会	新潟県	警女唄ネットワーク
神奈川県	NPO法人小田原鋳物研究所*	佐賀県	東真手野舞浮立保存会		越後弥彦手仕事倶楽部*
新潟県	城腰花笠踊保存会		嬉野町温泉区面浮立保存会	富山県	八尾町曳山保存会
富山県	岩瀬まだら保存会	長崎県	黒丸踊保存会	石川県	小松市歌舞伎愛好会
山梨県	八朔祭下町屋台保存会	熊本県	目丸棒踊り保存会	福井県	和久里壬生狂言保存会
長野県	小菅神社氏子総代会		本町虫追い太鼓を考える会	長野県	仁科神明宮神楽保存会
愛知県	大治太鼓保存会	大分県	国東神楽社	岐阜県	新楽舎獅子舞保存会
	能田徳若万歳保存会	宮崎県	綾町宮原地区唐人踊り保存会	静岡県	島田帯祭保存会
三重県	ゆうづる会*	鹿児島	伊崎田和紙保存会*	愛知県	古出来町神社奉賛会お祭囃子保存会
	大江羯鼓踊保存会	沖縄県	鹿兒島市中山町下虚無僧踊保存会	三重県	長太鯨船(天王丸)保存会
滋賀県	下笠参弥礼踊り保存会		草戸原		なすび団扇継承保存会*
兵庫県	さいれん坊主保存会	平成11年度助成(48)			深野和紙保存会*
奈良県	月ヶ瀬奈良晒保存会*	北海道	蘭越町根曲がり竹細工研究会*	滋賀県	綿向神社雅楽「楽人座」
	田口水分神社奉讃会	青森県	穂別町アイヌ民族文化保存会	京都府	棚倉孫神社瑞鏡御輿保存会
鳥取県	竹田さいとりさし少年団	岩手県	霧神社法霊神楽保存会	京都府	久多の山村生活用具保存会*
島根県	追神頭打供盛団	宮城県	山内神楽保存会	大阪府	三夜連絡継承会
広島県	養山八幡の吹囃子行事保存会	秋田県	城生野神楽会	兵庫県	播州音頭踊保存連合会
山口県	柳井織の会*	山形県	大沢郷椒沢番楽保存会	奈良県	安堵町なもて踊り保存会
	祝島神舞奉賛会	福島県	越沢自治会	和歌山	高芝の獅子舞保存会
徳島県	坂州若連中		海老根伝統手漉和紙保存会*	鳥取県	福栄伝統芸能保存会
香川県	ひょうげ祭り保存会	茨城県	豊景神社太々神楽保存会	島根県	民谷神楽団
愛媛県	内子町伝統文化継承団体連合会	栃木県	日枝神社流鏑馬保存会	岡山県	大賀島大智明權現保存会
	川名津神楽保存会	群馬県	升塚獅子舞保存会	広島県	江波漕伝馬保存会
高知県	一の宮万歳保存会	埼玉県	奥平神社獅子舞保存会	徳島県	高川原勇獅子保存会
福岡県	吉木芸能保存会	東京都	深作ささら獅子舞保存会	香川県	東かがわ市白鳥虎頭舞保存会
佐賀県	立岩浮立保存会	新潟県	江戸消防彩粋會	高知県	土佐の暮らしの文化を守る会
	馬渡区鉦浮立保存会	富山県	杉野沢民俗芸能保存会	福岡県	松会保存会
	土井丸浮立保存会	石川県	福光ちょんがれ保存会	佐賀県	飯田面浮立保存会
長崎県	大浦区舟グロー保存会	福井県	上井田獅子舞保存会	長崎県	若宮稲荷神社 竹ン芸保存会
	嵯峨島オーモンデー保存会		美浜町和田区	熊本県	中窪田神楽保存会
熊本県	福山神楽保存会	長野県	中之倉神楽保存会	大分県	野々河内神楽保存会
大分県	和間放生会祭典委員会	三重県	日野多慶子氏(願法寺の絵解き)	宮崎県	高城町穂満坊あげ馬保存会
	北原人形芝居保存会	滋賀県	曾原かんこ踊保存会	鹿児島	徳重大太鼓踊り保存会
宮崎県	伊形花笠踊り保存会	大阪府	油日神社奴振り太鼓踊り保存会		平原利秋氏(ゴッタン民俗楽器製作)*
鹿児島	塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)*	兵庫県	吉志部神社どんじ保存会	沖縄県	泡瀬京太郎保存会
	下小原八月踊保存会	奈良県	大蔵谷獅子舞保存会		伊波貞子氏(メジャー・織物)*
沖縄県	大川青年会	和歌山	吉野山青年団御田植神事保存会	平成10年度助成(47)	
	謝名アヤチ獅子保存会	鳥取県	小川郷土芸能保存会	北海道	穂別町アイヌ民族文化保存会
平成13年度助成(50)		島根県	芦津獅子舞保存会	岩手県	白符荒馬踊保存会
北海道	ペーパン福島踊り保存会	広島県	玉若酢命神社御霊会風流保存会		丹内金津流鹿躍保存会
青森県	高館駒踊保存会	山口県	幸崎町能地春祭保存会	宮城県	行山流湧水鹿踊保存会
岩手県	小袖漁撈唄保存会	徳島県	数方庭保存会	秋田県	山伏神楽保存会
	湯屋神楽保存会	香川県	阿波木偶箱まわし保存会		雄物川町岡本新内伝承会
宮城県	筆甫神楽保存会	愛媛県	NPO法人農村歌舞伎祇園座保存会		五城目町民俗芸能保存連絡協議会
秋田県	八沢木獅子舞保存会		高知獅子保存会		横岡サエの神保存会
	福米沢送り盆保存会				

平成3年～令和5年 都道府県別伝統文化助成先一覧(3) \*印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
三重県	水沢お諏訪おどり保存会	和歌山	藤白の獅子舞保存会	平成13年度助成(続き)	
滋賀県	ずいき祭保存会	島根県	南本通吉兆行事保存推進協議会	山形県	八ツ沼大名行列組合
京都府	丹後藤布振興会*	岡山県	白明会*	福島県	両原早乙女踊り保存会
大阪府	大阪太鼓文化研究会*	広島県	大朝飾り牛保存会	茨城県	東金砂神社太楽舞保存会
兵庫県	小五月祭(棹の歌)保存会	山口県	徳佐はやしだ保存会	栃木県	大沢田太々神楽保存会
鳥取県	賀露神社麒麟獅子舞保存会	愛媛県	井原圭子氏(和紙用笥製作)*	群馬県	上泉獅子舞保存会
島根県	須佐神楽保存会	福岡県	水田天満宮稚児風流保存会	神奈川	長安寺六字誦念仏講中
広島県	小原大元神楽 小原神楽団	佐賀県	戸ヶ里浮立保存会	新潟県	二田物部神社神楽舞保存会
	南方の万灯保存会		祖子分面浮立保存会	福井県	今庄羽根菅踊保存会
香川県	肥土山農村歌舞伎保存会	長崎県	滑石竜踊保存会	長野県	湯原神社式三番保存会
愛媛県	豊茂五ッ鹿踊り保存会	熊本県	菜ノ花会*		外倉獅子舞保存会
高知県	西諸木花取踊り保存会		九州相良古代踊り下免田保存会	岐阜県	高桑太鼓保存会
佐賀県	広瀬浮立保存会	大分県	佐伯市宇目酒利獅子保存会	愛知県	金沢歌舞伎
長崎県	太田尾町自治会*		下且祇園囃子保存会こども祇園囃子	三重県	なすび団扇継承保存会*
	戸根浮立保存会	宮崎県	行藤町白太鼓踊り保存会		「てんでん」保存会
熊本県	加勢川開発研究会合せ打保存会*		六日町ヨイマカ保存会	滋賀県	古高鼓踊り保存会
	下里白太鼓踊り保存会	鹿児島	塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)*	京都府	天満神社相撲保存会
大分県	荻神社俵楽	沖縄県	鮫島健志氏(加世田の鍛冶)*	大阪府	樫井西青年団
宮崎県	太郎坊べぶ踊り保存会		大浜青年会	兵庫県	宗教法人 廣峯神社
鹿児島	入来神舞保存会		今泊棒術保存会	奈良県	月ヶ瀬奈良晒保存会*
沖縄県	新川青年会			和歌山	熊野速玉大社祭事保存会
			平成15年度助成(35)	鳥取県	江波三番叟保存会
	平成17年度助成(37)	北海道	剣淵神楽保存会「剣龍会」	島根県	都神楽団
青森県	青森ねぶた正調囃子保存会	青森県	大川原の火流し保存会	岡山県	地域伝統工芸がませごの会*
岩手県	大ヶ生山伏神楽保存会	宮城県	山田大名行列組合		神根神社獅子舞保存会
	喜多流大船渡	秋田県	潟船保存会*	広島県	磐門神楽団
宮城県	新城の田植踊保存会		根子番楽保存会		郷之崎神楽団
秋田県	赤田獅子舞保存会	山形県	吹浦田楽保存会	山口県	山崎八幡宮 本山山事保存会
山形県	蔵岡延年の舞保存会	群馬県	行田獅子舞保存会	徳島県	大保じょうれい踊り保存会
福島県	館早乙女踊保存会	千葉県	パッパカ獅子舞保存会	愛媛県	河内口説保存会
	木目沢三匹獅子保存会	神奈川	長谷ささら踊り盆唄保存会		野間獅子連中
茨城県	日立郷土芸能保存会	石川県	輪島市本町キリコ奉賛会	福岡県	うきは市石垣保存実行委員会*
栃木県	三本木獅子舞保存会	岐阜県	数河獅子保存会	佐賀県	佐賀錦振興協議会*
埼玉県	辻の獅子舞保存会	静岡県	富士宮囃子保存会		西神野玄蕃一流浮立保存会
千葉県	岩沼の獅子舞保存会	愛知県	住吉ちゃんとう祭委員会		千代田中部小学校 高志狂言保存会
	中野獅子保存会	三重県	本郷「かっこ」踊り保存会	長崎県	大浦区舟グロー保存会
	幸田羯鼓舞保存会	滋賀県	志那中サンヤレ踊り保存会	熊本県	菜ノ花会*
東京都	矢部八幡宮獅子舞保存会	京都府	二箇上区		相良吾平阿蘇神社伝統神楽保存会
神奈川	田村ばやし保存会		阿良須神社練込保存会		産島八幡宮海を渡る祭礼保存会
福井県	蔵生区自治会	兵庫県	魚吹八幡神社武神祭保存会	大分県	板井迫神楽保存会
山梨県	高尾山徳見神社神楽保存会	奈良県	尾山萬歳保存会	宮崎県	虚無僧踊保存会
長野県	熊野神社祭囃子保存会	和歌山	椎出の鬼の舞保存会	鹿児島	塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)*
	桐原獅子舞保存会	鳥取県	貴布禰神社麒麟獅子舞保存会	沖縄県	津波古獅子蹴跳保存会*
愛知県	牧野嶋念仏踊り保存会	島根県	見々々神楽保持者会		那覇市首里汀良町獅子舞保存会
三重県	白塚町通夜講	広島県	枝の宮田楽団		
滋賀県	渋川花踊り保存会	愛媛県	つるぎ町一字雨乞い踊り保存会		平成14年度助成(48)
兵庫県	住吉神社水無月祭打込囃子保存会		佐田岬裂織り保存会*	北海道	篠路歌舞伎保存会
奈良県	田原地区伝統芸能保存会		客天弓祈禱保存会	青森県	入口青年会
和歌山	春駒保存会	高知県	狩山豊年踊保存会	岩手県	彦部郷土芸能保存会
島根県	矢上田植ばやし保存会	福岡県	求菩提山お田植祭保存会		板用肩怒剣舞保存会
広島県	羽佐竹神楽団後援会	佐賀県	仁比山神社大御田祭御田舞保存会	宮城県	河南鹿嶋ばやし保存会
福岡県	八女市土橋八幡宮神行事保存会	長崎県	上戸石町自治会		君萱若松神社神楽会
佐賀県	川内浮立保存会	熊本県	西安寺神楽保存会	秋田県	東長野ささら保存会
	三部区	大分県	大恩文化財愛護少年団	山形県	南陽市古代織りの伝統を守る会*
長崎県	中尾獅子浮立と唐子踊保存会	宮崎県	唐瀬子供神楽会	福島県	白鳥神社太々神楽保存会
熊本県	宝川内志賀段七踊り保存会	鹿児島	田之浦山宮神社神楽保存会	茨城県	真家みたまおどり保存会
大分県	田原獅子保存会	沖縄県	いしゃなざら青年会	栃木県	上横倉の獅子舞保存会
宮崎県	川内棒踊保存会		平成16年度助成(36)	群馬県	千本木龍頭神舞保存会
鹿児島	久見崎盆踊り「想夫恋」保存会	青森県	片岸えんぶり組	埼玉県	沖内囃子保存会
沖縄県	天願獅子舞保存会	岩手県	田東剣舞保存会	千葉県	野田津久舞保存会
		宮城県	廿一田植踊保存会	東京都	手作り絹研究会・多摩織部会*
	平成18年度助成(37)	秋田県	黒川番楽保存会	神奈川	相模里神楽垣澤社中
北海道	元更別大國神社石見神楽保存会	山形県	羽黒山松例祭若者衆	富山県	諏訪神社獅子舞保存会
青森県	斗内獅子舞保存会	福島県	昭和村からむし織後継者	福井県	じじぐれ祭保存会
岩手県	豊沢大念佛剣舞保存会		→育成事業実行委員会*	山梨県	下市之瀬の獅子舞保存会
	生出神楽保存会	栃木県	尾ざく獅子舞保存会		表門神社神楽保存会
宮城県	大曲法印神楽保存会	群馬県	赤城町古典芸能保存会	長野県	木賊獅子保存会
秋田県	大湯太鼓保存会	千葉県	本納滝の谷獅子舞保存会	岐阜県	有道しゃくし保存会*
福島県	会津万歳安佐野保存会	東京都	むさしのばやし保存会	愛知県	伝承知多木綿つものき*
茨城県	片野排禍ばやし保存会	神奈川	三増獅子舞保存会		石上げ祭伝承保存会
栃木県	興野ささら獅子舞保存会	富山県	宮崎神楽保存会	三重県	野口御神楽保存会
群馬県	泉沢町郷土芸能保存会	長野県	和田中神社太楽舞保存会	滋賀県	上砥山田楽踊保存会
千葉県	万作踊り松戸保存会		上駒沢祭典保存会	兵庫県	南光子ども歌舞伎育成会
東京都	美山町鯨獅子舞保存会	愛知県	向山神楽獅子保存会	奈良県	月ヶ瀬奈良晒保存会*
神奈川	あつぎひがし座				

平成3年～令和5年 都道府県別伝統文化助成先一覽(4) \*印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
熊本県	黒辺田野白太鼓踊保存会	栃木県	下鉢石町自治会	平成18年度助成(続き)	
鹿児島	塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)*	群馬県	宝積寺白鬚神社雅楽部	石川県	加賀万歳保存会
沖縄県	黒島民俗芸能保存会	埼玉県	椿名神社太々神楽保存会	福井県	舟寄踊保存会
平成22年度助成(42)		千葉県	脚折雨乞行事保存会	愛知県	きねこ祭保存会
青森県	二ツ森神楽芸能保存会	東京都	岩沼の獅子舞保存会	滋賀県	椿神社流鏑馬保存会
岩手県	門中組振興会	神奈川県	田無ばやし保存会	大阪府	大阪欄間工芸協同組合*
宮城県	佐藤明彦氏(堤人形製作)*	新潟県	海南神社行道面保存会	兵庫県	仁色長持保存会
秋田県	冬師番楽保存会	富山県	他門神楽保存会	和歌山	糸我郷土伝統芸能保存会
山形県	西袋獅子踊保存会	山梨県	半田神社神楽舞保存会	鳥取県	美成地区
福島県	菅波伝統文化継承会	岐阜県	八口諏訪社獅子舞保存会	島根県	野石谷伝統芸能保存会
茨城県	あおき囃子連	静岡県	大垣外獅子舞保存会	広島県	諸木郷土芸能保存会
栃木県	河井獅子舞保存会	愛知県	美濃歌舞伎保存会	徳島県	多田健二氏(阿波木偶人形制作)*
群馬県	木崎音頭保存会	三重県	掛塚屋台囃子保存会	香川県	香翠座デコ芝居保存会
埼玉県	三若会	滋賀県	六ツ師獅子舞保存会	福岡県	豊前感應楽保存会
千葉県	柏合獅子舞保存会	大阪府	生桑長松神社鏡餅奉納会	佐賀県	西牟田区子供みこし・鉦浮立保存会
	熊野神社神楽保存会	奈良県	曾原獅子舞踊保存会	長崎県	平島ナーマイド一保存会
	上本郷獅子講中	和歌山	篠田の花火保存会*	熊本県	ききつ船津ペーロン保存会
東京都	榎立踊り保存会	島根県	だいがく保存会		竹迫観音祭保存会下町分会
新潟県	川根谷内獅子保存会	岡山県	川西町保田自治会		栖本町郷土芸能保存会
富山県	福島青年親交会	広島県	ねんねこ祭保存会	大分県	保戸島伝統芸能保存会
石川県	小松尾小屋鶯保存会	徳島県	岩野原獅子舞保存会	宮崎県	熊襲踊保存会
長野県	玉依比賣命神社	香川県	福石神楽団		細野一区輪太鼓踊り保存会
岐阜県	加納まぢづくり会(和傘製作)*	福岡県	名字獅子舞保存会	鹿児島	小島棒踊り保存会
静岡県	巖室神社鎮火祭保存会	長崎県	五日市芸能保存会	沖縄県	中間棒踊り保存会
愛知県	有松天満社文嶺講	熊本県	後山からくり襖絵保存会		中城村宇津覇伝統芸能保存会
三重県	牛蒡祭保存会	宮崎県	流水灌頂法要保存会	平成19年度助成(39)	
滋賀県	志賀神社氏子総代	鹿児島	下町獅子山保存会	北海道	寿都松前神楽保存会
大阪府	三ツ松明土行念仏保存会	宮城県	上原浮立保存会	青森県	大平大神楽
兵庫県	北野まつり保存会	山形県	川島神楽連	岩手県	法領田獅子踊り保存会
奈良県	惣谷狂言保存会	福島県	都呂々獅子舞太鼓踊り保存会		羽山神楽保存会
鳥取県	向垣神社祭礼行事保存会	徳島県	入下神楽保存会	宮城県	浪板虎舞保存会
島根県	玉若酢命神社御霊会風流保存会	香川県	前野田植唄民謡保存会	秋田県	鳥海山日立舞横岡番楽保存会
岡山県	佐方子供吉備神楽伝承教室	愛媛県	船浮民俗芸能保存会	山形県	幸生区・三地区契組会
広島県	おおたけ手すき和紙保存会*	三重県	大船南部神楽保存会	福島県	浮島神社太々神楽保存会
山口県	山代白羽神楽保存会	新潟県	乳井獅子保存会		糠塚三匹獅子保存会
徳島県	橘だんじり祭り獅子組	山梨県	四ツ堰鹿子踊り保存会	栃木県	芦沼獅子舞保存会
愛媛県	北方獅子舞保存会	群馬県	村崎野大乗神楽保存会		山本政史氏(日下駄製作)*
高知県	シットロト踊り保存会	埼玉県	新中田火伏せの虎舞保存会	群馬県	貝沢西組獅子舞保存会
福岡県	鷹尾神社伝統芸能文化保存維持会	千葉県	梅内郷土芸能保存会	埼玉県	下日出谷餅搦踊り保存会
佐賀県	母ヶ浦面浮立保存会	東京都	渡戸高野・鯨組	東京都	八幡神社の獅子舞保存会
長崎県	平島盆踊り保存会	神奈川県	文挾流手岡獅子舞講中		星竹囃子連
熊本県	栖本町郷土芸能保存会	新潟県	新井八幡宮獅子舞保存会	新潟県	内島見神楽保存会
大分県	新町自治会	山形県	北袋囃子連	石川県	二所宮獅子舞保存会
宮崎県	高木郷土芸能保存会	福島県	不入斗同志会	福井県	長畠日向神楽保存会
	都城市高城町桜木あげ馬保存会	山梨県	代々木囃子保存会	山梨県	藤木道祖神祭保存会
沖縄県	鳩間民俗芸能保存会	長野県	山田獅子舞保存会	長野県	山新田太神楽保存・育成会
平成23年度助成(42)		愛知県	小向獅子舞保存会	愛知県	名古屋港筏師一本乗り保存会
北海道	糠内獅子舞保存会	三重県	羽森神社神楽舞保存会	三重県	矢浜神楽保存会
青森県	同心町熊野神社神楽連	京都府	櫛山獅子舞保存会	滋賀県	大原学区豊年太鼓踊り保存会
岩手県	外山神楽保存会	兵庫県	門前とどろ保存会	京都府	田山花踊り保存会
宮城県	熊野堂神楽・舞楽・十二神鹿踊保存会	新潟県	町区太々神楽実行委員会	兵庫県	小野原住吉神社神舞保存会
秋田県	福嶋サイサイ囃子保存会	静岡県	高岡道祖神日待古祭保存会	岡山県	粟井春日歌舞伎保存会
山形県	若宮八幡神社太々神楽保存会	愛知県	笹間神楽保存会	広島県	長尾神社湯立神楽保存会
福島県	杉沢愛宕神社三匹獅子保存会	三重県	日下部太鼓保存会	山口県	藤生神楽保存会
群馬県	美茂呂町屋台囃子保存会	滋賀県	大江羯鼓踊保存会	徳島県	上八万伝統文化を守る会
埼玉県	白久串人形芝居保存会	京都府	中堀町自治会孔明折水山保存会	香川県	賀茂神社長床神事保存会
千葉県	旅名鞆鼓舞保存会	兵庫県	質美下村区文化財保存委員会	愛媛県	かぶと踊り保存会
東京都	引田獅子舞保存会		日吉神社龍王の舞及び祝詞太鼓保存会	高知県	東洋町流鏑馬保存協議会
	諏訪神社崇敬会	福住下自治会	福住下自治会	熊本県	大浦獅子保存会
神奈川	川名屋台ばやし保存会	八島町六斎念仏講	八島町六斎念仏講	熊本県	柳別府太鼓踊り保存会
新潟県	天神林天満宮伶人会	南道奴行列保存会	南道奴行列保存会	大分県	深山流朝地神楽保存会
富山県	田島自治会	江波三番叟保存会	江波三番叟保存会	宮崎県	郷之原神社芸能協賛会
福井県	宇波西神社神事芸能保存会	八神神楽団	高津沖田地区環境保全向上対策協議会*	鹿児島	鮫島健志氏(加世田の鍛冶)*
山梨県	山梨岡神社舞子	宇甘神社獅子舞保存会	宇甘神社獅子舞保存会		如竹踊り保存会
長野県	NPO法人小谷山村学習育成会*	富士神楽団	特定非営利活動法人赤松煙火保存会*	沖縄県	古見民俗芸能保存会
岐阜県	八幡神社祭礼運営委員会	和田雨乞踊保存会	和田雨乞踊保存会	平成20年度助成(40)	
静岡県	東光寺猿舞保存会	上久原白宮獅子舞保存会	上久原白宮獅子舞保存会	北海道	寿都松前神楽保存会
愛知県	中之切奉賛会	自然と暮らしを考える研究会*	自然と暮らしを考える研究会*	青森県	上十川獅子踊保存会
三重県	立神自治会	権常寺浮立保存会	権常寺浮立保存会	岩手県	都島田植踊保存会
京都府	周枳民芸保存会	竹迫観音祭保存会	竹迫観音祭保存会	宮城県	日高見流浅部法印神楽保存会
大阪府	野崎第一地車保存会			秋田県	鳥海山小滝舞楽保存会
兵庫県	淡路人形浄瑠璃青年研究会			山形県	舟渡獅子踊り保存会
奈良県	神波多神社獅子神楽保存会			福島県	北萱浜神楽愛好会

平成3年～令和5年 都道府県別伝統文化助成先一覧(5) \*印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
		平成25年度助成(42)		平成23年度助成(続き)	
島根県	玉造調理師会	青森県	上川目神楽保存会	島根県	出雲國奏楽錬成会
広島県	山波神楽団	岩手県	大石町内会	広島県	大朝飾り牛保存会
山口県	住吉神社御船謡保存会		築館大乘神楽保存会	山口県	お手廻り保存会
徳島県	鳴門大鳳保存会	宮城県	鳥屋ヶ崎八幡神社獅子舞保存会	徳島県	大谷郷土文化保存会
香川県	石切唄保存会	秋田県	釜ヶ台番楽保存会	香川県	七宝古流本村夫婦獅子舞保存会
愛媛県	掛木天満宮「牛鬼」保存会	山形県	中獅子踊り保存会	愛媛県	佐方獅子保存会
高知県	御田八幡宮秋の例祭保存会	福島県	和田神社太々神楽保存会	高知県	大利太刀踊保存会
福岡県	柳川市立柳河小学校 →特別クラブ「子どもどろつくどん」	茨城県	久保田おほやし保存会	福岡県	ぜんでこ踊り保存会
佐賀県	川上鉦浮立保存会	栃木県	万町一丁目東自治会		平八月祭り保存会
長崎県	東上面浮立保存会	群馬県	新田赤堀獅子舞保存会	佐賀県	南片白区浮立保存会
熊本県	熊本新町獅子保存会	埼玉県	北本宿囃子連	長崎県	馬場本浮立保存会
宮崎県	細江神楽保存会		神明社神楽保存会	熊本県	小屋川内獅子舞保存会
	風田製糖組合*	千葉県	関下囃子	大分県	重岡岩戸神楽保存会
鹿児島	花尾太鼓踊り保存会	東京都	檜原村春日神社御飼神事保存会	宮崎県	花木地区郷土芸能あげ馬保存会
沖縄県	勢理客区	新潟県	長沢祭典実行委員会	鹿児島	西上太鼓踊り保存会
	平成27年度助成(44)	富山県	打出青壮年部	沖縄県	伊平屋村青年団協議会
北海道	遠矢神楽舞保存会	石川県	串町町内会		平成24年度助成(54)
青森県	甲地神楽保存会	福井県	関見神社例祭神事保存会	青森県	五戸えんぶり組
岩手県	小通芸能保存会	山梨県	新町お囃子保存会	岩手県	門中組振興会
	槻沢芸能保存会	岐阜県	NPO法人グリーンウッドワーク協会・竹部会*		片岸虎舞保存会
宮城県	葉菴神社三輪流神楽保存会	愛知県	愛知・半田・板山万歳保存会		山岸さんさ踊り保存会
秋田県	坂之下番楽保存会		東玉垣唐人踊り保存会	宮城県	小室契約会
山形県	綱木獅子踊り保存会	滋賀県	鍋冠祭保存会		浪板虎舞保存会
茨城県	古内大杉ばやし保存会	大阪府	御領地車保存会		磯草虎舞保存会
栃木県	天下一関白流西組獅子舞保存会	兵庫県	羽淵獅子舞保存会		大谷大漁唄い込み保存会
埼玉県	久那獅子舞保存会	奈良県	吐山太鼓踊り保存会		長塩谷南部神楽保存会
	金鑽神楽永田組	和歌山	三船踊り保存会		大室南部神楽保存会
千葉県	坂戸の踊躍念佛講	島根県	美保神社神事奉賛会		相川南部神楽保存会
東京都	大宮前郷土芸能保存会	岡山県	佐方ひがさき踊り保存会		仙台堆朱*
	多摩めかいの会*	広島県	錦城神楽団	秋田県	秋田万歳保存会
神奈川	根府川寺山神社鹿島踊保存会	山口県	滝坂神楽舞保存会	山形県	大谷神楽保存会
新潟県	昔かたり春よこい	徳島県	宿毛谷獅子舞保存会	福島県	川原田神楽保存会
富山県	広野自治会	愛媛県	NPO法人金栄会		新館太々神楽保存会
石川県	神子原壮年団	高知県	四ツ白武士踊り会		鹿島神社郷土芸能保存会
長野県	日和山神社芸能保存会	福岡県	安武楽保存会		天命鑄物伝承保存会*
岐阜県	綾野第三自治会小獅子軸保存会		一般社団法人豊前小倉織研究会*	群馬県	白瀧神社太々神楽保存会
愛知県	知立神社神楽保存会	佐賀県	執行分浮立保存会	埼玉県	下小坂獅子舞保存会
三重県	若宮八幡神社北村石取り祭車保存会	長崎県	長崎明清楽保存会	千葉県	飯岡ばやし日の出会
滋賀県	大野木豊年太鼓踊保存会	熊本県	市房山神社 里宮神社	東京都	高井戸囃子保存会
京都府	玉田神社「宮座」森当座		長坂なれなれなすび踊り保存会	新潟県	大谷地和紙保存会*
大阪府	中垣内地車保存会	宮崎県	中野神社神楽保存会		蔵王稚児舞の会
兵庫県	土師獅子舞保存会	鹿児島	黒潮太鼓	富山県	加茂神社神事伝承会
奈良県	篠原おどり保存会		平成26年度助成(44)	石川県	向粟崎悪魔祓い保存会
和歌山	亀の川念仏踊り保存会	北海道	美和権現獅子舞保存会	福井県	多賀区獅子保存会
鳥取県	菖蒲神社麒麟獅子舞保存会	青森県	目名神楽会	山梨県	中之倉神楽保存会
島根県	三谷神社獅子舞保存会	岩手県	の組菱和会	長野県	湯原神社式三番保存会
広島県	山根神楽団	宮城県	白浜自治会	岐阜県	河鹿神社賀喜踊保存会
	おおたけ手すきと紙保存会*	山形県	舟渡獅子踊り保存会	愛知県	万足平を考へる会*
山口県	切山歌舞伎保存会	福島県	松岡若連		東浦町森岡おまんこ祭り保存会
徳島県	池谷郷土芸能保存会	栃木県	日光囃子保存会	三重県	戸木東組かんこ踊り保存会
愛媛県	井原圭子氏(伊予簀製作)*	群馬県	津久田人形操作伝承委員会	滋賀県	小野町太鼓踊保存会
福岡県	永井獅子保存会	埼玉県	今成地区山車・囃子保存会	大阪府	深江菅細工保存会*
佐賀県	浮立・荒踊り保存会		赤沼民俗文化財保存会	兵庫県	西町獅子舞保存会
長崎県	命婦の舞保存会		久長元耕地獅子舞保存会	奈良県	田原地区伝統芸能保存会
熊本県	仲町の茶わん鉢保存会	千葉県	道庭獅子連保存会	和歌山	堅田祭保存会
	宇土市轟泉簡易水道組合*	東京都	八幡囃子保存会	岡山県	大浦神社
大分県	堅浦古典芸能保存会	神奈川県	台祭囃子保存会	広島県	御調八幡宮花の踊り保存会
宮崎県	神下俵踊り保存会	新潟県	水沢伝統芸能保存会	山口県	上野神楽舞保存会
鹿児島	目手久民謡保存会	富山県	加茂神社神事伝承会	徳島県	森藤獅子舞保存会
沖縄県	仲西獅子舞保存会	石川県	内灘町宮坂区	香川県	安田おどり保存会
	平成28年度助成(43)	福井県	鈴鹿区大太鼓保存会	愛媛県	井原圭子氏(和紙用簀製作)*
北海道	寿都松前神楽保存会	山梨県	一之瀬高橋春駒保存会	高知県	泉川長者花鳥踊り保存会
青森県	入口青年会	長野県	根神社式三番鳥保存会	福岡県	植木の三申踊保存会
	嘉瀬奴踊り保存会	岐阜県	綾野第4自治会綾野祭軸唄々軸保存会	佐賀県	島海浮立保存会
岩手県	遠野郷楽澤しし踊り保存会	愛知県	上名和祭りばやし保存会	長崎県	森山本村郷土芸能保存会
宮城県	赤谷神楽保存会		東大高祭禮保存会	熊本県	東浦臼太鼓踊り保存会
秋田県	鳥海山小滝舞楽保存会	滋賀県	下笠参礼踊り保存会	大分県	北原人形芝居保存会
山形県	清川獅子神楽実行部会	京都府	出雲風流花踊り保存会	宮崎県	不土野芸能保存会
福島県	太田川梅若和讃唄念仏踊保存会		NPO法人丹波漆*	鹿児島	土踊保存会
	梅田三匹獅子舞保存会	大阪府	延喜式内社 岐尼神社	沖縄県	童子八月踊り研究会
栃木県	大沢獅子舞保存会	和歌山	池田秀孝氏(紀州高野組子細工技術)*		豊見城市 高安自治会
群馬県	鷲宮太々神楽保存会	鳥取県	服部神社獅子舞保存会		

平成3年～令和5年 都道府県別伝統文化助成先一覧(6) \*印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
三重県	五ヶ所浦区	鹿児島	ナゴシドン <small>の</small> つなぎ手事業	平成28年度助成(続き)	
滋賀県	古屋六齋念仏踊保存会	沖縄県	ヨシシ <small>ー</small> 踊り保存会	埼玉県	粟生田囃子会
大阪府	中佐備町会		新里民俗芸能保存会		新久はやし保存会
兵庫県	下浜三番叟保存会	平成30年度助成(43)		千葉県	家之子獅子連郷土芸能保存会
奈良県	紅しで踊り保存会	北海道	砂川もちつき保存会	東京都	森山はやし保存会
鳥取県	逢東盆踊り保存会		越中踊り子供保存会	神奈川	田村ばやし保存会
島根県	土江子ども神楽団		留萌岩戸神楽保存会	新潟県	小川連中
山口県	末田焼物の里保存会*	青森県	柏木町荒馬保存会	富山県	岩瀬白山町曳山愛好会
徳島県	七成会		八幡崎郷土芸能保存会	福井県	日吉青年会
愛媛県	下吾川獅子舞保存会	岩手県	善楽流獅子舞保存会	長野県	影山区
高知県	大谷花取踊保存会		大槌城山虎舞	愛知県	白山神社奉納雅楽舞踊保存会
福岡県	沼楽保存会	宮城県	宮川田嶺神社附属神楽組	三重県	牛蒡祭保存会
佐賀県	龍宿浦面浮立保存会	秋田県	鹿角紫根染・茜染研究会*	滋賀県	金居原太鼓踊り保存会
長崎県	島原木綿織保存会*		板戸番楽保存会	京都府	福知山市佛性寺自治会
	狩立オネオンド保存会	山形県	致芳地区文化振興会	兵庫県	熊野神社浄舞保存会
大分県	玖珠神楽神祇社	福島県	磐梯町本寺区	奈良県	龍口獅子舞保存会
宮崎県	小川神楽保存会		門鹿王子神社太々神楽保存会	和歌山	土生八幡神社「お頭保存会」
沖縄県	志多伯獅子舞棒術保存会	栃木県	天一一関白神獅子舞保存会	鳥取県	大和佐美命神獅子舞保存会
令和2年度助成(42)		群馬県	八木原諏訪神社太々神楽舞子会	島根県	野石谷伝統芸能保存会
青森県	塩釜神楽保存会	埼玉県	八木原諏訪神社太々神楽舞子会	広島県	下板木コミュニティー
岩手県	青笹町しし踊り保存会	千葉県	金鑽神楽岡部組保存会	山口県	むつみ神楽保存会
宮城県	白石和紙 蔵富人*	東京都	賀茂神社民俗芸能保存会	徳島県	東辻郷獅子舞牡丹連保存会
	塩竈神楽保存会	東京都	青梅市虎柏神社祭り行事保存会	愛媛県	NPO法人姫だるまプロジェクト*
秋田県	上若郷土芸能保存会	新潟県	赤塚太々神楽保存会	高知県	日高村太刀踊保存会
山形県	達磨寺田植踊り保存会	福井県	田井野区・多由比神社伝統芸能保存会	福岡県	元岡祇園ばやし保存会
福島県	海老根伝統手漉和紙保存整備事業実行委員会*	長野県	野辺町来迎念仏講	佐賀県	宮野浮立保存会
茨城県	女沼ささら保存会	岐阜県	東座歌舞伎保存会	長崎県	横尾だんじり保存会
栃木県	尾出山神社関白流獅子舞保存会	静岡県	東光寺猿舞保存会	熊本県	東方組太鼓踊り保存会
群馬県	新井諏訪神社獅子舞保存会	愛知県	藤江神社八ッ頭舞楽保存会	大分県	岡倉神楽保存会
埼玉県	金鑽神楽本庄組神楽保存会	三重県	田口念佛踊継承会	宮崎県	酒谷地区むらおこし推進協議会
千葉県	家之子獅子連郷土芸能保存会	滋賀県	黒川花笠太鼓踊り保存会	鹿児島	止上神社神舞保存会
東京都	大戸囃子保存会	和歌山	広川町古典芸能保存会	沖縄県	友寄獅子舞棒術保存会
神奈川	相模人形芝居 前鳥座	鳥取県	秋里伝統文化を保存する会	崎原克友氏(八重山上布製作)*	
新潟県	関山神社仮山伏伝承会	島根県	三葛神楽保持者会	平成29年度助成(43)	
富山県	稗田伝統文化保存会	山口県	豊原地区腰輪踊り保存会	北海道	有明獅子舞有志の会
石川県	中央町中忠会	徳島県	信正鉦踊り保存会	青森県	国吉獅子踊保存会
福井県	三国祭囃子 初香会	香川県	櫃石ももて祭保存会	岩手県	篠木神楽保存会
長野県	中萱紫石会	愛媛県	天神花踊り保存会		平泉流細野念仏剣舞
岐阜県	青墓大太鼓踊りを守る会	高知県	佐喜浜八幡宮古式行事保存会	秋田県	脇山山車どんど保存会
愛知県	古布区古布獅子舞保存会	福岡県	博多鉦製作技術保存会*		亀田大神楽神楽講
	尾張旭市印場北部地区警固祭り保存会	佐賀県	前田の盆踊保存会	山形県	岩根沢大々神楽保存会
三重県	立岡虫送り保存会	長崎県	下新ヶ江地区沖ノ島太鼓浮立保存会	福島県	荒獅子保存会
滋賀県	朝日豊年太鼓踊保存会	熊本県	正山八ノ川青年団	栃木県	伊野下町祭保存会
大阪府	摂州地車囃子かざら	大分県	清源寺神楽保存会	埼玉県	東不動院野神楽保存会
和歌山	根来塗曙山会*	宮崎県	山香神楽保存会		古久喜獅子舞保存会
	顯國神社三面保存会	鹿児島	比木神社神楽会	千葉県	熊野神社神楽保存会
島根県	出雲大社教神代神楽 西日登神楽社中	鹿児島	竹田神社からくり保存会	東京都	清水ばやし保存会
広島県	田熊神代神楽保存会	沖縄県	松原自治会	神奈川	野比中村町内会虎踊り保存会
山口県	下関平家踊保存会西山連	令和元年度助成(42)		新潟県	浦瀬町奏楽保存会
徳島県	穴喰祇園祭お能保存会	青森県	八戸市島守小学校神楽クラブ	石川県	柴垣壮年団
香川県	原獅子組	岩手県	八幡大神楽保存会	福井県	津島区神楽保存会
高知県	浮津西町鯨舟の唄保存会	宮城県	秋保神社神楽保存会	長野県	小市神楽囃子保存会
福岡県	松会保存会	秋田県	大湯大太鼓保存会	岐阜県	関市獅子舞保存会
佐賀県	米多浮立保存会		仙道番楽保存会		岐阜和傘プロジェクト実行委員会*
長崎県	長坂浮立保存会	山形県	鍋田念佛講保存会	静岡県	江浦伝統文化保存会
熊本県	永尾ちよぼくれ保存会	茨城県	古河神楽保存会	愛知県	出川町棒ノ手保存会
	柳別府太鼓踊り保存会	栃木県	大神神社神楽保存会	三重県	大淀東区自治会
大分県	宝楽保存会	群馬県	戸祇園囃子保存会	滋賀県	井之口太鼓踊保存会
宮崎県	日南市泰平踊本町組保存会	埼玉県	戸口囃子会	大阪府	大東市中垣内自治会
鹿児島	大崎伝統芸能神舞保存会		武甲山御嶽神社里宮太々神楽保存会	和歌山	太地町民芸保存会 青水青年同志会
沖縄県	宮城ウンデーク保存会	諏訪万作保存会	諏訪万作保存会	鳥取県	波津神社獅子舞保存会
令和3年度助成(43)		岩沼の獅子舞保存会	岩沼の獅子舞保存会	島根県	深野神楽こども教室
北海道	上ノ国昔踊り保存会	檜立太鼓会	檜立太鼓会	岡山県	仕組踊り保存会 城扇
青森県	湊えんぶり組	広野自治会	広野自治会	広島県	上河内獅子舞保存会
	浅井獅子踊保存会	川尻会 獅子舞響	川尻会 獅子舞響	山口県	徳地人形浄瑠璃保存会
	田子町ナニャドヤラ保存会	高浜七年祭保存会	高浜七年祭保存会	徳島県	池谷神踊り保存会
岩手県	犬吠森念仏剣舞保存会	小伏獅子舞保存会	小伏獅子舞保存会	香川県	賀茂神社長床神事保存会
	築館大乘神楽保存会	根神社式三番叟保存会	根神社式三番叟保存会	福岡県	水田天満宮稚児風流保存会
宮城県	古式獅子舞保存会	杉山は清氏(飛騨わらび製縄)*	杉山は清氏(飛騨わらび製縄)*	佐賀県	納富分浮立保存会
秋田県	東長野ささら保存会	伊豆島田区不動尊講	伊豆島田区不動尊講	長崎県	東浜町一組女相撲保存会
	釜ヶ台番楽保存会	勝幡おこまつり保存会	勝幡おこまつり保存会	熊本県	菊池市下出田区・植古閑区
山形県	大谷獅子舞保存会	下門祭礼保存会	下門祭礼保存会	大分県	三輪流白杵神楽保存会
福島県	芳賀須内青年会	鳥原歌舞伎愛好会	鳥原歌舞伎愛好会	宮崎県	麓輪太鼓踊り保存会

平成3年～令和5年 都道府県別伝統文化助成先一覧(7) \*印は民俗技術

助成先		助成先	
令和4年度助成(続き)		令和3年度助成(続き)	
佐賀県	沖永区自治会	茨城県	東牛谷お囃子保存会
長崎県	勝本祭り囃子保存会	栃木県	大神神社伶人保存会
	宮崎昭行氏(木造和船製作)*	埼玉県	塚越囃子連
熊本県	菊池市下出田区、植古閑区	千葉県	笹川神楽保存会
	市原町自治会(市原獅子舞保存会)	東京都	留原囃子保存会
宮崎県	綾町唐人踊り保存会	神奈川県	宮城野獅子舞保存会
<b>令和5年度助成(48)</b>		新潟県	榎下町稚児舞保存会
岩手県	行山流湧水鹿踊保存会	富山県	広野自治会
	大ヶ生山伏神楽保存会	山梨県	向原下組道祖神御神木保存会
	山田大神楽保存会	長野県	和田神社御神楽芸能同志会
秋田県	大森親山獅子大権現舞保存会		荻原神社秋祭り実行委員会
	比立内獅子踊保存会比靖会	岐阜県	荒川松阪踊り保存会
福島県	前沢の女宝財踊保存会	愛知県	大留下棒の手保存会
	下柴獅子団		常滑市小倉囃子保存会
茨城県	田倉三匹獅子保存会		河和山車保存会
埼玉県	粟生田囃子会	京都府	大住隼人舞保存会
	地縁法人 上町会		伊根町 亀島区
千葉県	佐倉囃子保存会	奈良県	大宝寺六斎講
神奈川	藤野歌舞伎保存会	和歌山	紀州製竿組合*
	前鳥神社囃子太鼓保存会	島根県	出雲國大原神職神楽保存会
新潟県	矢作里神楽保存会	広島県	宮之庄神楽団
富山県	高砂山願念坊祭り保存会		宗教法人 須佐神社
石川県	御経塚青年会	徳島県	勝瑞獅子保存会
山梨県	小明見富士浅間神社太々神楽保存会	香川県	山本長刀踊保存会
岐阜県	玉太鼓踊り保存会	高知県	船戸花取踊り保存会
静岡県	島田鹿島踊保存会	福岡県	今宿青木獅子舞保存会
愛知県	東海市万歳保存会	佐賀県	戸杓浮立保存会
	牟呂八幡宮神幸祭神事相撲保存会	長崎県	高浜相撲協会
京都府	周枳民芸保存会三番叟組	大分県	立石楽継承活動応援隊
大阪府	鍛冶町町会		阿鹿野獅子保存会
	日置荘西町東部町会	鹿児島	土踊保存会
	釜室町会	沖縄県	伊集の打花鼓保存会
	八田寺町町内会	<b>令和4年度助成(45)</b>	
	大北町会	北海道	月浦獅子舞保存会
	中尾生町会	岩手県	江刺家神楽保存会
	尾生町会	宮城県	中浜神楽保存会
	上代町町内会		佐沼鹿踊伝承会
	尾井町町会	秋田県	新沢八幡神社獅子舞講
	富秋町会	山形県	中山町川向金比羅樽流し保存会
島根県	有福神楽保持者会	福島県	横沢の麓山まつり保存会
	石見神楽保存会 久城社中	茨城県	日立郷土芸能保存会
広島県	三良坂町郷土芸能保存会	栃木県	三本木獅子舞保存会
山口県	住吉神社 御田植祭協賛会	群馬県	八幡原太々神楽保存会
香川県	十獅会	埼玉県	野々宮獅子舞保存会
高知県	鶴来島地区	千葉県	相野谷郷土芸能保存会
福岡県	銀座子供山笠	東京都	代々木囃子保存会
	戸畑祇園鳥籠町子供山笠	神奈川県	曾我別所寿獅子舞保存会
	戸畑祇園元宮子供山笠		大谷はやし連
佐賀県	蔵上町御田舞保存会	新潟県	赤倉神楽保存会
佐賀県	母ヶ浦面浮立保存会	富山県	広野自治会
佐賀県	南川獅子保存会	山梨県	米倉人形芝居保存会
熊本県	園田 久氏*	長野県	下駒沢氏子保存会
	穴川夜神楽保存会		羽場獅子舞保存会
鹿児島	津貫中間豊祭太鼓踊保存会	愛知県	尾張旭市新居地区馬の塔保存会
沖縄県	喜名伝統芸能保存会		向山区神楽獅子保存会
<b>累計助成件数 1,400件</b>			足助宮町お囃子保存会
		滋賀県	大荒比古神社奴振り保存会
		京都府	平自治会
		兵庫県	お弓神事保存会
		和歌山	戯瓢踊保存会
		島根県	宅野神楽団
		岡山県	作州絃保存会*
		広島県	津田神楽団
		山口県	北河内神楽舞保存会
			下津令大神楽保存会
		徳島県	姫田獅子舞保存会
			櫛木獅子舞保存会
		香川県	認定NPO法人農村歌舞伎祇園座保存会
		愛媛県	牛鬼保存会
		高知県	尾崎太刀踊り保存会
		福岡県	竹の曲保存会
			江上神社風流保存会

## 財団案内

### 財団の目的

明治安田クオリティオブライフ文化財団（理事長：関口憲一）は、音楽における人材育成ならびに地域の伝統文化の保存維持、および後継者育成に対する助成などをおこない、もって国民生活の質的向上ならびにわが国文化の発展に寄与することを目的としています。

□□□

### 【財団の概要】

名 称	公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団 The MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION
設 立	平成3年（1991年）6月10日
主務官庁	内閣府
基本財産	14億6,250万円（2023年3月末日現在）
事業内容	・音楽分野における若手芸術家の人材育成に対する助成 ・民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成 ・芸術文化活動に関する調査研究、出版物の刊行
事業計画	○クラシック音楽分野における若手音楽家の人材育成に対する助成 ・海外における音楽研修に対する助成 ・国内音楽学生に対する奨学援助 ○民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成 ・地域の民俗芸能（含、民俗行事、民俗音楽）の保存維持、後継者育成のための助成 ・地域の民俗技術（含、伝統的製作技術、衣食住に関わる生活技術、伝統工芸）の保存維持、後継者育成のための助成
事業成果	これまでの累計助成状況（令和5年10月現在） ・音楽分野 592人 10億2,480万円 ・伝統文化分野 1,400件 7億0,647万円
主な出捐企業	明治安田生命保険相互会社